

全学必修知財科目における 受講者の“声”の講義内容へのフィードバック

○李鎔璟・北村真之・木村友久(山口大学大学研究推進機構知的財産センター)

1. はじめに

山口大学では全国初となる取り組みとして 2013 年 4 月より共通教育課程において知財科目を必修化し、入学した全学生が知財教育を受けられる体制を構築した^{1)~3)}。その全学必修知財科目においては毎講義の最後に受講者が小レポートを記入する時間を設けており、その小レポートからは受講者の関心のある事項やよくわからない事項、素朴な疑問など、受講者の率直な生の“声”が聞こえてくる。そして、その“声”をもとに作成した回答スライド(Q&A形式の参考教材)は、受講者の講義内容の理解度や満足度の向上に作用し、また能動的学習の促進に繋がるなど、講義の補填ツールとして有効であることが分かった^{4),5)}。本稿では、この Q&A 形式の参考教材の講義スライド(必須教材)への転用、さらには新規作成の教科書への取り込みについて報告する。

2. 受講者の“声”の収集と Q&A 作成

全学必修知財教育の科目名は「科学技術と社会～〇〇学部生のための知財入門～」で、入学してくる 1 年次生全員が受講する(約 2000 名、一部 2 年次履修有り)。90 分×8 回(1 単位)の科目で、クラスは学部や学科単位に分かれており、全部で 12 クラスある(一クラスの受講生は約 110 名～230 名)。講義内容は著作権の基礎及び産業財産権の基礎についてであり、複数の教員で担当しているが、講義内容は原則として全クラスで統一化を図っている(2014 年度以降)。毎講義の最後の 10 分間は小レポートの記入時間としている(図 1 の③)。この小レポートの記入項目のうち、「B. 今回の講義でわからなかった、その他この授業に関連する質問」、「C. 知的財産全般に関して知りたいことや質問」から聞こえてくる受講者の“声”、つまり、知財初学者の素朴な疑問や理解が足りない箇所などを抽出する(図 1 の④)。そして、それらをもとに Q&A 形式の回答スライドを作成する(図 1 の⑤)。

これまでに 9 クラス(2013 年度 4 クラス、2014 年 4 クラス、2015 年 1 クラス、計約 1690 名の受講生の“声”を分析し、質問等の抽出と回答スライドの作成を行った(抽出した質問は 300 問以上、作成した回答スライドは約 140 枚)。

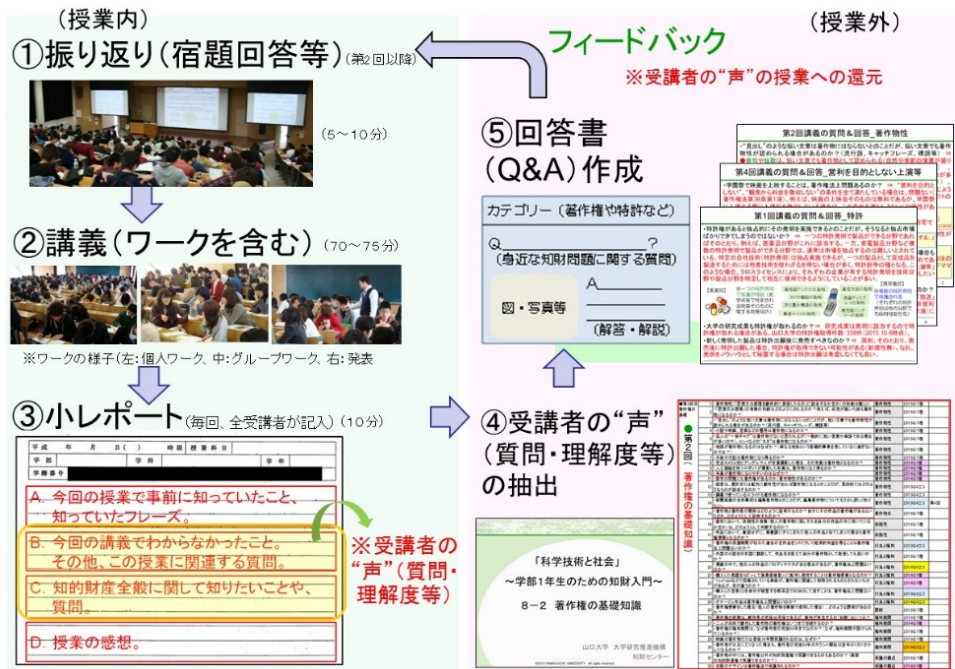


図 1 受講者の“声”の収集と Q&A 作成の流れ

3. 受講者の“声”の講義内容へのフィードバック

受講者の“声”（質問等）に対するフィードバック方法として、(1) 授業中に口頭で回答（回答スライドを使って授業の冒頭に主要な質問をピックアップし回答）、(2) 回答スライド（Q&A）のWeb掲載（授業時間外にいつでもアクセス・活用可能）、がある（一部のクラスではWeb掲載に加え、紙配布も行った）。これらの取り組みについては既に報告済み^{4), 5)}であり、回答スライド（Q&A）が講義の補填ツール（参考教材）として有効であることが示されている（受講者の理解度や満足度の向上、能動的学習の促進に繋がる）。但し、これらの方法では、受講者の“声”をもとに作成した回答スライドはあくまでも参考教材としての位置づけにある。参考教材から必須教材への転用・活用（講義内容への直接的フィードバック）としては、(3) 講義スライドへの取り込み、(4) 新規作成の教科書への取り込み、がある（図2）。(3)については、例えば、第1回目の講義（知的財産の全体像）での「知的財産と知的財産権の違いについてもう少し説明してほしい、違いがよく理解できなかった」といった受講者の“声”をもとに新たな講義用スライドを作成し講義内容への取り込みを行うなどした。(4)については、本科目に関する教科書の作成（新規）にあたって、(3)で作成した新たな講義スライドや本文に受講者の“声”を反映させた内容を盛り込むなどした。この新規に作成した教科書は、2016年の入学者から教科書として使用している。

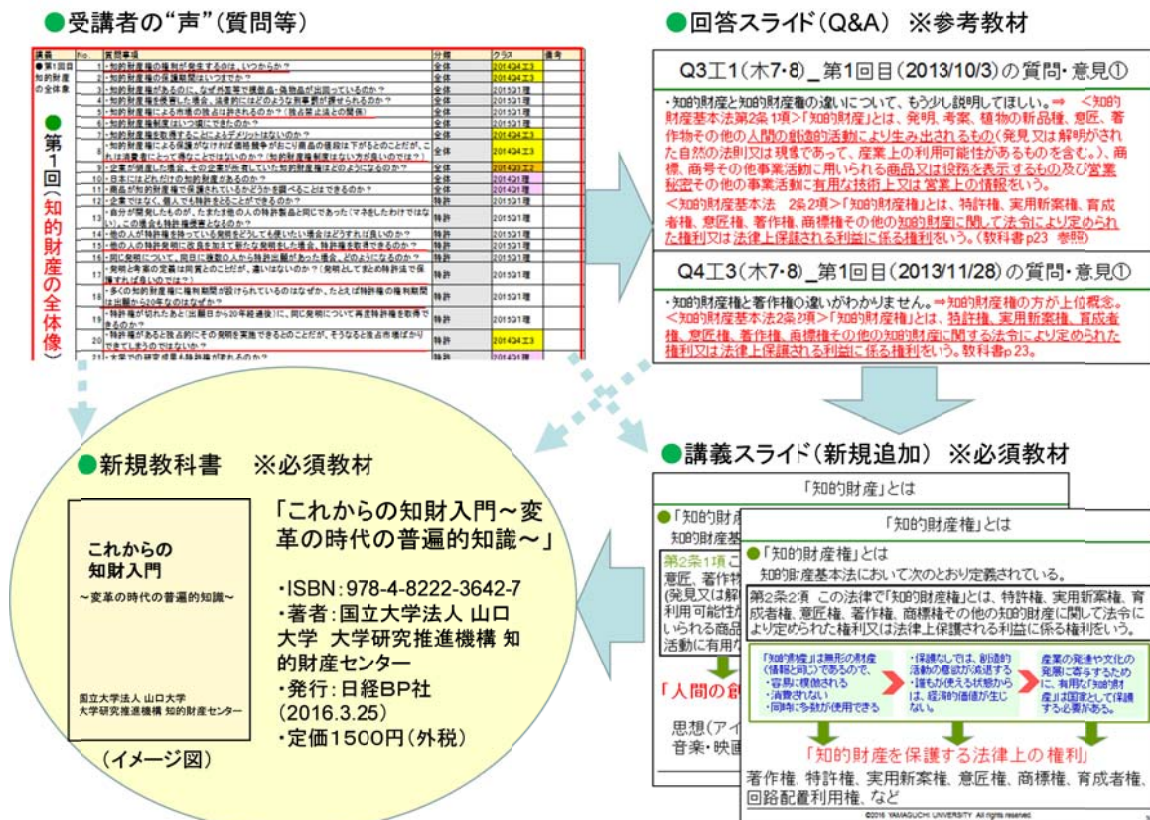


図2 受講者の“声”の必須教材への取り込み

【謝辞】本研究の一部は、**JSPS科研費15K00980**：基盤研究（C）（平成27年度～平成29年度）の助成を受けて行っています。

- 1) 「全学知財必修科目における授業改善取り組みとそれによる効果分析」, 李鎔環・陳内秀樹・北村真之・阿濱志保里・木村友久, 産学連携学会第13回大会, 講演予稿集, 0626E0900-4, p262-263(2015), 2) 「全学知財教育の実践的取り組み」, 李鎔環・北村真之・阿濱志保里・木村友久, 産学連携学会第12回大会, 講演予稿集, 0626C0910-3, p178-179(2014), 3) 知的財産政策ビジョン, p35 (2013.6.7. 知的財産戦略本部決定), 4) 「全学必修知財科目における授業教材についてのアンケート調査～受講者からの質問対応を主眼に～」, 李鎔環, 北村真之, 木村友久, 産学連携学会第14回大会, 講演予稿集, 0616B1100-2, p47-48, 2016, 5) 「全学必修知財科目における受講者の“声”に対する対応と効果」, 李鎔環, 北村真之, 木村友久, 産学連携学会関西・中西四国支部第7回研究・事例発表会, 講演予稿集, M7-22, p43-44, 2015